

—発表の主な内容—



関 明恵（鹿児島県立埋蔵文化財センター 文化財主事）

【鎌倉～江戸時代】

豊臣政権末期、薩摩にはなかったすぐれた製陶技術が朝鮮半島からもたらされ、薩摩焼が誕生します。また、薩摩焼がなかった鎌倉時代や室町時代、安土・桃山時代は、中国との交易により、数多くの陶磁器が輸入されました。発掘調査から解明された成果をもとに、薩摩焼のルーツや大陸からもたらされた珍しい焼き物についてお話しします。

東 和幸（鹿児島県立埋蔵文化財センター調査第一課第一調査係長）

【飛鳥～平安時代】

大和地方から遠く離れた南九州は、地域によって時間をおきながら、中央政権に組み込まれたようです。大和地方と同じような出土品や、建物が建てられた方向などから、当時の様子を探ってみたいと思います。文献史料がわずかしかない時代ですので、遺跡が各地域の歴史を探るための大きな手掛かりになります。一緒に謎解きをやりましょう。



川口 雅之（鹿児島県立埋蔵文化財センター 文化財主事）

【弥生時代～古墳時代】

弥生時代の鹿児島は、奄美・沖縄諸島との交易窓口として重要な地域でした。また、古墳文化の南限にあたり、大隅半島には前方後円墳の他に、地下式横穴墓など地域色豊かな墓制が発達しました。

今回の発表では、近年の調査成果から、本県の特徴を示す重要な遺跡について報告します。

黒川 忠広（鹿児島県立埋蔵文化財センター 文化財主事）

【縄文時代】

約1万年間続いたとされる縄文時代。霧島市上野原遺跡の発掘調査成果など定説を覆すような発見や、これまでの発掘調査によって様々なことがわかってきました。今回のフォーラムでは、最新の調査事例なども織り込みながら、鹿児島の縄文時代と人々の生活・文化を紹介します。



馬籠 亮道（鹿児島県立埋蔵文化財センター 文化財主事）

【旧石器時代】

南九州は、鹿児島の特徴ともいえる火山灰によって旧石器時代の石器の変遷がよく分かる、全国的にも恵まれたフィールドです。20年間の調査によって分かってきた、シラス台地に生き、火山の恵みを巧みに利用した旧石器時代の人びとのすがたを、わかりやすく紹介します。

—対談—

会場のみなさま方とこれまでの遺跡発掘の成果についてふりかえり、今後の発掘調査に期待することや埋蔵文化財の活用などについて考えます。



寺田 仁志
(埋蔵文化財センター 所長)



児玉 ゆりえさん
(遺跡サポーター)



堂込 秀人
(埋蔵文化財センター 調査第一課長)